

Alert 反天皇制運動 34号

[通巻 416 号]
2019 年
4 月 9 日発行

第 7 期・反天皇制運動連絡会

今月の Alert

●「代替わり」本格スタートに対抗する反天 WEEK へ——ともに!!——*2

反天ジャーナル ●——大橋にゃお子、イスラエル嫌い、映女*3

状況批評 ●宗教としての天皇制を考える——菱木政晴*4

ネットワーク ●リニア説明会を開け JR 東海の録画禁止に抗議——宗像充*7

紹介 ●「運動史とは何か——社会運動史研究 1」大野光明・小杉亮子・松井隆志編

——小杉涼子*8

太田昌国のみたび夢は夜ひらく(105)

●国史が孕む文化的・歴史的歪みの克服を——改元騒ぎに思う——太田昌国*9

マスコミしかけの天皇制(33) ●〈象徴天皇教〉と元号制

——〈壊憲天皇明仁〉その 31——天野恵一*10

野次馬日誌*11 集会の真相*13 反天日誌*15 学習会報告*15 集會情報*15

「反天連」の結成時点から、女性史の研究者として象徴天皇制を支える民衆意識の鋭い「内在批判」を持続し、私たちの運動の強力な理論的な助っ人であり続けた加納実紀代さんが 78 歳の生涯を終えられた。私たちと彼女との協力関係は、〈女性天皇制〉の評価をめぐる対立の局面を含めて、今日まで決して崩れることはなかった。2 月 22 日の彼女の死の報告が、私たちに届いた時は、2 月 24 日の「天皇在位 30 年記念式典」のマスコミ大騒ぎに抗する運動に私たちが忙しく動きまわっている最中であった。遠からぬ死を最後の著作の「あとがき」などで自分で公言していた彼女の死は、「悲しみ」はあっても「驚き」はなかった。

しかし、4 月 1 日の高橋寿臣のサウナでの突然死の報告は、頭が真っ白になる「驚き」と「嘘だろう」という思いが、今でも続いている。彼は「反天連」結成時から、長く運動を共にし、同世代ということもあって、運動の中でのゴタゴタに対処しなければならない時の私の相談相手として唯一無二の、信頼できる友人であった。その関係は、彼が事務局の日常活動をリタイアしてしまっている今まで、続いてきた（最後に会った 3 月 30 日の「天皇『代替わり』直前！ いまからでも "NO" と言おう」集会の後も、めんどくさい相談ごとについて助言を久しぶりに聞いたばかりであった）。

100 歳近くまで生きた福富節男さんが、まだ 90 歳に入っただけ入っていない年齢のころ、「この年になると親しかったいろんな友人も父母などの血縁関係者も、みな死んでしまい、ひどく寂しいもんだよ」と語った言葉が、私の耳に残っている。まだ、そんな年齢になっていなかったその時の私は、「そんなもんだろーな」と思った程度であった。

高橋は 70 歳。わたしもすでに 71 歳である。今、その「寂しいもんだよ」という言葉が本当に強烈に身に染みる。

(天野恵一)



250 円

- 定期購読をお願いします(送料共年間 4000 円)
- 郵便振替 00140-4-131988 落合ボックス
東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 2A 淡路町事務所気付 落合ボックス
TEL/FAX 03-3254-5460 URL <http://www.ten-no.net/mail:hanten@ten-no.net>
- 以前の情報はこちら ▶ <http://hanten-2.blogspot.jp/>

今月の
Alert

「代替わり」本格スタートに対抗する 反天 WEEK へ——ともに!!



四月一日、新「元号」が発表された。新「元号」を掲げる菅官房長官のしたり顔と、その掲げられた「令和」の二文字が、その日の夕刊一面をドアップで占拠した。私が購読する新聞の翌日朝刊は「教育欄」「生活欄」「文化・文芸欄」と数字が並ぶだけの「金融欄」以外で、「元号」を見ないですむ欄はないという異様さであった。社会全体がこの情報を待っていたし、「新しい時代」を喜んでいと言わんばかりである。少なくともそのように誘導する。しかし、それが空回りであることもメディアはよくわかっているはずだ。

よく見れば、反対する声も記事になっていた。実際、反対する人は少なくない。世論調査でも「元号離れ」は指摘されている。しかし、すべてが決まったあとに、どのように反対の意見を紹介されても遅すぎるのだ。元号反対の署名を始めた時も、国会への抗議行動も、そして署名提出の時も、メディアはまったくもって無視を決め込んでいた。今さらでも何でも、私たちの意見が表に出るのはいかに違いない。だが、影響を及ぼすには時機を逸し過ぎた記事づくりには、ほとほとイヤになるばかりだ。

世論調査での「元号離れ」はすでに昨年から指摘されていたし、非合理性や「国民生活への影響」も指摘されていた。しかし、やめようという言論づくりは見られない。遅すぎた時期を待たずに、それをやるわけにはいかない。そういう方針に貫かれているのだ。

「元号」は「中国古典からではなく国書か

ら」という保守派を代表する安倍の意向で、「万葉集」から選ばれた。しかしその翌日には、その歌も中国古典が元になっているという専門家たちの「定説」が暴露されているし、菅による新「元号」発表の直後に行った安倍の記者会見についても、安倍が政治的すぎるといった声がすでに週刊誌等では上がっている。新「元号」の政令への署名が新天皇ではなく、現天皇がなす事への批判等々も。もともと、元号の発表時期をめぐっても、天皇退位・新天皇即位と絡まりつつ、「国民生活への影響」などまったく無視されながら、政府の手前勝手な紆余曲折を経て四月一日に決まったのだった。ケチばかりがついている。

それでも「元号」をやめようという話にはならない。良い「元号」の発表時期、良い発表の仕方、良い「元号」の選び方や良い手続きに良い運用……。しかし、そんなものはあり得ないのだ。「元号」がダメなのだから。元号は非合理的である。しかし、それ以上に、思想信条の問題であり、歴史認識、基本的人権の問題なのだ。

新「元号」発表より少し前の三月一二日、天皇は、「退位及びその期日奉告の儀」という天皇退位に関する最初の儀式を行った。天皇が四月三〇日に退位することを、皇居内にある宮中三殿で神々に報告するという儀式だ。その神々とは、アマテラスであり、神武天皇から始まるという歴代天皇の霊であり、その他諸々の神々であるという。私たちは忘れがちであるが、天皇たちは常にこの神々と

ともにあり、祈りの対象として皇居内に祀っているのだ。同日、伊勢神宮、神武天皇陵、昭和、大正、明治、孝明の各天皇陵に使者を派遣する「勅使発遣（ちよくしはつけん）の儀」も行われている。

そして三月二六日、関連行事の一つとして、天皇・皇后は「皇室行事」として、神武天皇陵を参拝した。このような退位関連儀式は全部で一一ある。今後、四月一八日に伊勢神宮、同月二三日に昭和天皇陵を参拝し、退位を直接報告するという。四月三〇日の「退位礼正殿の儀」は国事行為として開催し、三権の長、閣僚らも出席する。

なぜ、退任・就任ではなく退位・即位なのか。「代替わり」がなぜ辞令一枚ですまないのか。これらの一連の儀式が物語るが、宗教的な存在が国家機関となっているからだ。そして、それが一公務員の「身分」ではないという認識があるからだ。そのような制度に縛り付けられているこの国のありようが、社会のセーフティネットよりもこのような制度に多額の税金を使うことを是とするのだ。

二月二二日、加納実紀代さんが、四月一日、反天連の高橋寿臣さんが亡くなった。お二人からはたくさんのお話を学んだ。高橋さんは、この反「代替わり」闘争を私たちと共に走るつもりであったはず。

4・27から始まる反天WEEK、気持ちは一緒に頑張るぞ。みなさまもぜひご参加を!! ●ジリ貧につき次号より自前印刷突入。長らく支えてくれた山猫印刷に感謝!! (桜井大子)

中島家の事情

日本のアイドル『サザエさん』。そのサザエさんにはあまり知られていない描写や設定がある。アニメではなく漫画の方であるが。例えば「おい、コラ」と女性を呼び止めた警察官に、ケシカラーンと、サザエが怒る等々（実は女性は警官の妻なのだが、それが分かった後も「妻に向かって何事かー」と、更にヒートアップ）。

そしてもう一つ、切ない設定がある。それはカツオの親友・中島の家事情だ。彼はお祖父ちゃんと兄貴の3人暮らしで両親が一切出てこない。その裏にはトンデモない事情があったのだ。実は中島の母は東京大空襲時に幼かった中島をがばって亡くなり、父は南方で戦死。その後、祖父は兄弟を引き取り、現在に至る。という訳。連載開始は敗戦からわずか8か月後の1946年4月。戦争の記憶は勿論、「新しい女性」として描かれたのも当然といえる。それなのにサザエとフネが専業主婦という理由だけで、保守層から絶賛されているという。そして5月には日野市の高幡不動尊でマスオさんの声優が「マスオさんが語る日本の家族」という講演会をやるのだとか。流石、「皇室ファミリー」にも支持されているサザエ一家。寺がこんな日本会議みたいな企画をするのは、だからなのかー！

（大橋にゃお子）

進められる安保法制の実施

安倍政権は4月2日、シナイ半島に展開する多国籍監視軍（MFO）に自衛官2人を派遣すると閣議決定をした。安保法制に盛り込まれた「国際連携平和安全活動」の初の実施である。安保法制では、既に「自衛隊法第95条の2」による米軍の艦船や航空機に対する「武器等防護」活動が行われている。これは17年は2件だったが、18年には16件で訓練中だけでなく米軍が実際に運用している艦艇にも実施された。

シナイ半島への派遣は、司令部要員とは言え、自衛隊による国連の枠組みでない米軍主導の多国籍軍への参加の先駆けとなる。MFOは「イスラエル、エジプト両軍の活動を監視している」とされているが、その実態は「エジプトやイスラエルの親欧米勢力を支え、アラブ諸国で噴出する反米闘争を抑え込むための『監視団』である」とも言われている。

安保法制を強引に成立させた安倍政権にとって、とりあえずはそうした枠組みへの派遣自体が重要なだろう。2名の自衛官が派遣されるシャルム・エル・シェイクは、「エジプトにおける第一の国際的ビーチリゾート地で、中東各国、ヨーロッパ各国からも多数の定期便、チャーター便が就航するなど世界的に人気が高い」ところだそう。

（イスラエルは国連嫌い）

ブラック・クリンズマン

今年の米アカデミー賞で、注目を集めたのが作品賞レース。S・リー監督の「ブラック・クリンズマン」VS「グリーンブック」でした。結局、黒人差別が激しかった時代を背景にしたイタリア系白人の運転手と孤高の黒人天才ピアニストとの友情を描く「人畜無害」の後者が選ばれました。

両者を見比べれば、「ブラック……」のほうが断然面白い。街で初めて採用された黒人刑事（リー監督の「マルコムX」主演デンゼル・ワシントンの息子ジョーン・デヴィット・ワシントン）が悪名高い白人至上主義者KKK（クー・クラックス・クラン）に潜入捜査を試みるという冗談のような本当の話の映画化。冒頭、映画「風と共に去りぬ」（39）のアトランタ陥落の場面から始まり、S・オハラが、神に南部連合を救うように祈り、南部連合旗が大写しに。次いで、トランプ大統領の真似で有名な俳優演じる博士が白人優位を説く。

そして物語が始まるのだが、1970年代を時代背景にブラックパワー全開の場面が出てきます。かのアンジェラ・デーヴィスがモデルと思われる学生運動の指導者も出てきます。

不気味なのはKKKの入団式で流されるD・W・グリフィス監督の映画「国民の創生」（1915）です。映画はKKKを活性化しました。

最後に流されるのは、17年の南部での白人至上主義者のデモと混乱、プリンスの歌。

（映女）

状況批評

思想・状況・批評

宗教としての天皇制を考える

菱木政晴（靖国合祀イヤですアジアネットワーク事務局）

I 大嘗祭とは何か

目前に迫った天皇代替わりに際して改めて「宗教としての天皇制」が問題になっている。代替わりの中で国民主権原則違反や奉祝要請による思想・表現の自由の権利の侵害が問題になると並んで政教分離原則違反が頻発することが予想されるからである。

政教分離違反になることが明白なのはいずれにしても公費で運営されるいわゆる大嘗祭なのであるが、大嘗祭とはいったい何であるのか。今度の代替わりに即してこのことを少し厳密に説明してみよう。

大嘗祭という宗教儀式についてこれについて反対する人の多くは「天皇が神になる儀式」と説明して（だから「けしからん」として）いるようだ。政府の説明では「新天皇が五穀豊穡と国民の安寧を先祖神に祈る儀式」ということになっている。大嘗祭とは、本来「新たに天皇となった者が行う最初の新嘗祭」ということなので、大嘗祭を天皇が神になる儀式として何の根拠もなく説明した折口信夫を含めて通常の新嘗祭までもが天皇が神になる儀式だというような説は誰もとなえないので、私は政府説明が宗教学的には正しいと思っている。新嘗祭は天皇家だけでなく古代豪族のほとんどが行った農業儀礼であり、現在でも天皇家とは異なる出雲大社などで行われている。それは「氏族・豪族の長が祭祀長となつて行う五穀豊穡と同族の安寧を祈る農業儀礼」なのであり、氏族の長が神になる儀式ではない。新天皇が即位しても前の天皇はたいてい生

きているから霊が乗り移るなど考える必要はないし、それは今度の大嘗祭でもその時点で多分アキヒトは生きているからそうなるだろう。一世一元を採用した近代天皇制の儀式ならそういう「ヒトが神になる」という意味付けをしても悪いとは言えないが、それを本当ににぎにぎしく行つた大正天皇（よしもと）嘉仁が神になったという宣伝はされていないし、「大正神宮」もない。顕密仏教の一部である伝統的神道においては怨霊以外は「神」にはならない。しかし、氏族の長は自身「神」ではないが、世襲であれ、長老たちの互選であれ、新たに就任した場合、必ず祭司長になる。天皇家においてもそうであり、長は直接に「神」となるわけではない。これは実は近代天皇制の中でも基本的に踏襲されておりいわゆる天皇の「人間宣言」と称される詔勅でも、否定されているのは現人神の觀念だけで、（神の子孫としての）祭祀長の権限は否定されていない。

しかし、外見は神道に似ている（というよりは、神道施設とそっくりなものを使いながら内容が異なる）「国家神道」という新宗教は、農業呪術の一種である神道とは異なり「ヒトを「神」にする」教義を持っている。すなわち、英霊顕彰である。英霊顕彰とはなにか。「英霊」という言葉の文字通りの意味は「すぐれた人の靈魂」だが、実際には戦死者にしか使わない。「顕彰」とは、「功績などを世間に知らせ、表彰すること」（広辞苑）であり、「功績」は「てがら」のこと、「表彰」は、「善行などを世に広く明らかにしほめること」である。したがって、英霊顕彰とは、「戦争で死んだ人を、善行をした人として、ほめたたえ、広く世

界に知らせること」になる。このことをもっと簡単に言えば、戦死者に對して「死んでくれてありがとう、これからもあなたたちの後輩に對して、つぎの戦争で死んでくれるための模範になってください」ということである。この態度は、「あなたたちを戦争で死なせてしまったことは本当に申し訳ないことだ、本当にごめんなさい、これからはもうこんなことは決してしません、あなたたちの後輩を戦争で死なせることはしません」というのとは大違いである。だから、国家神道において〈神〉になる人間は戦争や侵略に役立って後に続いて戦争を担う者の模範とみなされる者、あるいは、模範と認定されていなければならない。空襲で死んだ一般市民は模範と認定しようがないから〈神〉と祀られることはないが、軍事行動の一環とされていた疎開児童や沖繩で集団強制死に遭遇した幼児も戦闘に貢献したという評価を「援護法」のからくりを通して）こじつけて〈神〉になることもある。国家神道が政治的に創出される以前、人が〈神〉になるのは怨霊に限られていたので、天皇もまた崇神のような怨霊めいたもの以外は神にならない。アマテラスは神であるが、降臨した孫のニニギは微妙としても、それから六代経た神武になると「ひと」とみなされているから墳墓や陵はねつ造されても、〈神〉に成ってはいないのでそれを祀る神社はなかった。すなわち、神武を神と祀る橿原神宮は「国家神道」の中で形成されたのである。楠木正成の湊川神社もしっかりである。明治天皇・睦仁は秀吉が成し遂げられなかった朝鮮侵略の成就者であることを意識して秀吉の桃山城近くに陵を作らせ、東京に神宮ができた。秀吉もまた侵略の模範として明治になってから神社（豊国神社）に祀られた。秀吉も睦仁もいずれも、戦争と侵略の模範として〈神〉になったとみなすべきだろう。折口が神秘性を込めて説明した大嘗祭で〈神〉になったはずの大正天皇嘉仁の神宮はない。嘉仁はハンゲルを学び会話の練習もしたらしく、とても侵略の模範とは言えない男だった。しかし、彼は皇族の長として「国民（皇民）の安寧と

五穀豊穡を祈る」特別の資格があった。これはどういう意味を持つのだろうか。

Ⅱ 宗教としての天皇制

マキアベリ（1469—1527）は『君主論』で「君主たる者は、いかにも宗教心に満ちているかのように、振舞わねばならない」と言う。その理由は、以下の如くである。

君主の統治は、もちろん、人による人の支配である。ところが、君主が神や仏に敬虔な態度をとる（ように見せかける）ことによって、人びとはあたかも王国に暮らすすべてのものが神や仏の慈愛に守られているかのような錯覚に陥り、支配されることに感謝さえしてしまう。また、災いが生じたときも、それを天罰・天譴と受けとめる思考回路ができていれば、君主にとってこれほどありがたいことはない。このような支配が可能であるためには、君主は率先して「祈る」あるいは「祈るふりをする」存在である必要があるが、本人が神として君臨してしまう必要はない。神として君臨してしまえば、失政は、「君臣ともに祈りが足りなかった」では済まされなくなり、〈神〉の権威が落ちてしまうからである。〈神〉はなんだかよくわからないが畏敬の対象となっていることが大切なのであって、生身の人間が〈神〉になってしまつと、漠然と畏れ漠然と敬うという、宗教が人びとに影響を与える一番の力がむしろ失われてしまう。君主は、「率先して祈る」すなわち〈祭祀長〉であることが強みなのであって〈神〉になってしまえば子供だましにしかない。私は、日本の天皇制も本来こういうものだったし、今も基本的にはこういうものだと思っている。生身の人が神になる、つまり「現人神」という思想は近代の一時期にいびつに現れたこともあるが、それなりに生真面目な神道学者が本気で唱えることはまずない。先に触れた天皇のいわゆる「人間

宣言」(新日本建設に関する詔書)も「天皇ヲ以テ現御神(アキツミカミ)トシ」は否定していても「朕ト爾等国民トノ間ノ紐帯ハ、終始相互ノ信賴ト敬愛トニ依リテ結バレ」ていることは否定していないのである。この否定していない部分こそが、天皇が「率先して祈る」資格を保証しているのである。天皇となった豪族の内部でその《祭司長》就任争いは尽きなかったし、他の豪族との争いも八世紀に到るまで激しかった。けっして「終始相互ノ信賴ト敬愛トニ依リテ結バレ」ているわけではなかったが、帝国憲法発布勅語ではこれを強引に「朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ」として、自分はアマテラスという《神》の子孫、なんじ爾臣民はアマテラスの家来のアマツコヤネ以下の《神々》の子孫として「終始相互ノ信賴ト敬愛トニ依リテ結バレ」ていることにしたのである。この宗教としての根幹は「人間宣言」で何ら否定されていない。

凡そ宗教が信じられている、あるいは、もっと一般的な言い方をして、宗教が社会で機能しているとは、一般に、それによって統合機能(同調強要機能)と補償機能(感情の錬金術)が働いていることとして観察される。個々人の内面は、これを漠然と信じ、拒否を漠然と畏れているにすぎないのであって、今問題にしている国家神道における天壤無窮の神勅や紀元節の八紘一字の詔勅を文字通り信じている者はほとんどいないと思われる。「漠然と」にならざるを得ないのは、超越的な「神勅」などを経験することが原理的に不可能だからであり、にもかかわらず、その「超越的なもの」「経験できないもの」と神秘的超能力や万世一系の血縁などによって関われる特別の存在があると(これはかなり真剣に)信じられているからである。天皇だけがそうなのではない。祭祀を承継することになっている家長もまた、漠然と祭祀長だと信じられている。でなければ、先祖祭祀などが今日においても完全に捨てられることのない理由を説明することができない。喪主と儀式の執行者なしで人の死を

処理することができないこと、天皇が「率先して祈る」存在であることを否定できないのは、この特別の存在とそうでない者の根本的差別が存在するからであり、それが宗教の危険性の本質である。

したがって、このような宗教の危険を回避するには「一切の宗教的なものの完全な拒否」または「誰でも平等にかかわれる超越的なものの発見」の両者しかない。前者がいわゆる「絶対的無神論」、後者がいわゆる「普遍宗教」である。どちらも現実的にはほとんど存在しないが、自覚的にそれを目指すことはできる。宗教としての天皇制の拒否もこの二つの方法によるしかないとは私は考えている。

私自身は、後者に属すると自覚しているが、後者の罨は普遍宗教と称するものが実際には帝国主義の宗教にすぎないということである。普遍宗教は、民族(の違い)を超えることになっているが、帝国主義も(支配的な民族がその他一切の)民族の違いを超えて支配するからである。また、前者のいわゆる無神論者は、帝国主義的な普遍宗教の表面に顕れた教義には抵抗できるが、それが実際に働く所の漠然とした畏敬には無警戒であることが多い。天皇が神になるというようなばかばかしい教義には抵抗できても、象徴天皇に対する漠然とした畏敬もまた見逃してしまふことはないか。反天皇制を实效あるものにするため、互いに力を合わせていきたいものである。

リニア説明会を開け JR東海の録画禁止に抗議

宗像充（大鹿の十年先を変える会）

二〇一二年にリニア新幹線の工事現場予定地の南アルプス山麓、大鹿村を訪問した。度々登山の雑誌で進行状況を紹介したが、数年の間、リニア新幹線について継続的に取り組むジャーナリストは、ほくともう一人しかいなかった。

あれよあれよという間に環境影響評価の手続きがすみ、二〇一四年には国土交通省は着工を認可し、二〇一七年の開業予定で工事が始まった。総工費は東京（品川）～名古屋間だけで五・五兆円。今世論を分断している辺野古の埋め立ての当初費用が二四〇〇億円だからその約三〇倍だと言えば、その規模と影響の大きさが想像できるだろうか。

もちろんゼネコン不正に至るまで、リニアの問題が世間に伝わらなかったのには、ぼくたちの努力不足という以外に仕掛けもある。建設主体のJR東海は、アセスの過程で一カ所につき最低三回程度の説明会を沿線各地で行っている。その後も着工前に工事説明会を開催する。杜撰な計画で当初なかった工事の変更がなされても、実際はアセスの説明会はなく、都心部の予定地では地下四〇m以上の大深度のため、上に家があっても説明はない。

しかもこの説明会の仕方がひどい。質問は三問までに制限し一度に行なう、再質問は許さない、決められた時間が来れば手を挙げている

人がいても説明会を終える、借り受けた公共施設の入口に禁止事項を列挙した紙を貼り出す、関係者以外は出席させず住民が呼んだ人であっても会場に入れない、メディア以外の住民による撮影をさせない、わずか数枚の配布資料よりはるかに多い数十枚の画像が説明時に投影され、メモ代わりの画像の撮影すら禁止する……大鹿村の住民になつて頭に来るのが、会場に行かないと説明すらしないことだ。住民なのに情報の入手も制限付き。中部電力はアセスの資料を各戸配布するが、JR東海にやる気はない。

こういった「情報統制」に対して、メディアの録画は冒頭のみ。各自治体の連絡協議会などはメディアには非公開なところが多い。それで住民が疑問をぶついたり、場が荒れたりしても、終了後にJR東海の部長がメディアの囲み取材に、「理解が深まった」と回答して工事が進む。言っても聞いてもらえないし、言ったところでメディアは伝えない、となつて住民の孤立感は大きく、しんどさは解消されない。

その上、リニアの実情を記者として伝えると、「ご説明」と称してJR東海の広報が雑誌の編集部に押しかけ、「二方的」と何度でも編集部とのやり取りを求める。音上げて雑誌がリニア問題を取りあげなくなる。こうやって原発同様「安全神話」が維持されてきた。しかし、大手の記者たちに「報道の自由」

を守ろうとする緊張感はない。住民が会場で「そもそもリニアは必要なのか」と問うと、「それをここで聞かないでください」とJRの担当者が答える。しかし、そんな問いはどこでも議論されてこなかった。国家的なプロジェクトである以上、地域の問題を地域だけが背負うのは荷が重い。

そんなわけで、住民団体個人、それにジャーナリストに一月の大鹿村での説明会を前に緊急に呼びかけ、共同声明として発表し、関係自治体や記者クラブに申し入れた。最終的に三四団体、六三個人が賛同してくれた。大鹿村の説明会では、住民としてほかが公開の仕方に冒頭異議を唱え、フリーランスの記者を中心に、いっしょに抗議してくれた。

こういった措置を大鹿村もJR東海も、「出席者の自由な発言を妨げるため」という理由で正当化している。そこで取材を控える時間枠やコーナーを用意したり、発言者が録画の可否を発言できることを司会が冒頭アナウンスしたりするよう事前に主催者に提案したが、村もJRも拒否した。もともとそれが目的ではないからだ。そもそも冒頭録画しているので途中の録画を禁じる意味がない。実際、静岡の専門家による委員会は、静岡県側の措置で全部公開している。こういったやり取りが公開でなされたこと自体、反撃の意味があった。

とはいえ、当日録画禁止の措置を解除できたわけではない。それでも今回の取り組みで得られた賛同の輪は価値がある。住民もジャーナリストもどちらも、問題を広く知ってもらい、多くの人を議論に引きずり込む意志があれば、現状は打破できないからだ。説明会は今後もあるだろう。より多くの人の賛同を得られるようこの取り組みを持続したい。

紹介

『運動史とは何か——社会運動史研究1』 大野光明・小杉亮子・松井隆志編

小杉亮子（社会学）

過去にあった社会運動の実践、思想、系譜を掘り起こし、検証し、記録を残す。『社会運動史研究』は、そうした運動史研究のためのメディアとして、今年二月に新しく立ち上げられた。本書はその第一巻であり、特集「運動史とは何か」と社会運動史関連書籍の書評が掲載されている。『社会運動史研究』の発起人三人は、社会学をおもな専門とする、若手の研究者である。大野光明は、沖縄闘争や反戦・反基地運動の研究者であり、京都で反基地運動を担っている。わたし（小杉亮子）は六〇年代の大学闘争をテーマとしてきた。松井隆志は、六〇年安保闘争やベ平連など六〇年代の社会運動と思想の研究者である。

なぜいま、このメディアを立ち上げたのか。背景には、近年の社会運動への関心の高まりと、その裏側で過去の運動にたいする平板な歴史化が進むことへの危機感がある。二〇一一年以降の反原発・脱原発運動、二〇一三年ごろからのヘイトスピーチにたいするカウンター行動、二〇一五年の安保法制反対運動など、二〇一〇年代になって、日本の社会運動に新しい動きが起きていると、メディアや研究者が共感的に注目するようになった。オキユパイ運動や#MeToo運動など、海外の社会運動の動向や、日本の社会運動との影響関係にも関心が寄せられている。

ここで、近年の運動に意義ある新しさがあることを否定したいのでは、もちろんない。問題化し

たいのは、「新しい」「古い」が社会運動を評価する軸として存在することから生じる事態である。「二〇一〇年代の」「新しい」「ポスト三・一一の」……こういった表現を用いている社会運動が語られるとき、そこには自然と、対照される「古い、昔の社会運動」のカテゴリーが立ち上がる。こうした議論の構図は、社会運動の過去と現在をいたずらに切断し、平板な「昔の社会運動」のイメージに、過去の社会運動の豊かな営みを押し込んでしまっているのではないか。わたしがこれまで研究してきた大学闘争についていえば、二〇一五年の安保法制反対運動のころはとくに、六〇年代の学生運動に「暴力的」「非合理的」といったイメージを貼り付け、この貧しいイメージと対比させながら、安保法制反対運動の先進性や、そこに参加する若者たちの行動や言葉が持つ新しさを強調する言説が流通した。この流れに抗するために、これまでの運動史研究の蓄積を再訪しながら、過去の社会運動についての調査・研究をおこない、それを共有する場が必要だと考えた。

皮切りとなる第一巻では、「そもそも社会運動史とは何か」を問おうと、特集「運動史とは何か」を掲載した。内容は、発起人三人による、それぞれにわたっての社会運動史研究の方法と枠組みを論じた論考や、社会運動史研究のメディアの「先輩」である『運動史研究』（一九七八―一九八六年）について「運動史研究会」の事務局を担った伊藤晃さんに寄せていただいた文章などである。

発起人三人は、いま社会運動史の媒体が必要だという点では一致しているものの、「社会運動とは何か」という社会運動像も、社会運動史にたいする立場も異なる。このことは発起人三人だけでなく、本書に登場してもらった全ての人にも、多少少なかれ当てはまるだろう。社会運動史の多面的な意味やありかたが、本書をとおして浮かび上がってきているのではないかとやや自画自賛的ではあるが、思う。

本書冒頭の「なぜ私たちは『社会運動史研究』を始めるのか」という文章で、「社会運動史をめぐって研究者がネットワークをつくり討論を重ねる場となるような、プラットフォームづくりをめざす」「このメディアをアカデミズムと運動現場との有機的な結合の場にすることをめざしたい」と、めざすところを勢い込んで掲げた。『社会運動史研究』を、発起人が専門とする社会学だけに閉じるのではなく、歴史学や思想史などほかの領域の研究者とも、共通の議論が交わされる場に育てたい。また、研究という営みは、職業的研究者や学生だけが従事するものではなく、運動現場でおこなわれる過去の検証・継承の作業もまだ運動史研究であり、両者が相互参照し混じり合う場にしたい。このめざすところに、発起人三人だけで到達できるとは、もちろん考えていない。さまざまなひとと一緒に運動史の作業を担い、議論を深め、このメディアを育てていくことができたかと考えている。（新曜社、二〇一九年、本体一五〇〇円＋税）

(4月6日記)

33
マスコミの
天

〈象徴天皇教〉と元号制

——〈壊憲天皇明仁〉その31



三月三〇日は私たち「反天連」も呼びかけ団体の一つとしてつくられた「終わりにしよう天皇制!『代替わり』反対ネットワーク」の「代替わり」直前!今からでも「NO」と言おう」集会。主催者側の五人の問題提起をふまえた討論の中で、この間、私たちが積極的に提起し続けてきた〈天皇教〉という概念をめぐっても論議がまわった。

この言葉を運動の中に投げ込んだ人間の一人として、ここで最低限の概念規定(説明)をしておきたい。私が〈天皇教〉、より正確には〈象徴天皇教〉という言葉で示したかったのは、戦後の象徴天皇制国家の中にも、大日本帝国憲法下とは違ったかたちの(キチンと「政教分離」を掲げた憲法二〇条をベールにした)、「祭政一致」国家であるということを今こそハッキリさせたかったからである。

日常的には、表に大きく露出させられることのない「万世一系」の神々につらなる天皇一族の皇室祭祀は、国有地である宮城の中につくられた神殿で、日々、続けられている。マスコミを媒介に、表に日々示されている天皇一族の「顔」は、象徴(人間)天皇制である。しかし裏には神権天皇制(祭政一致国家)が常にはりついている。この二重構造がどうしても大きく露出するプロセスとして、「天皇代替わり」の政治プロセスがある。この戦後の新しい「国家神道」は、「非宗教」のたてまえで神社神道をほぼまるごと国家(皇室神道)の内側に抱え込むスタイルで成立した、かつての国家神道(天

皇教)とは違って、神社神道は民間にかえして、ただ国家の中心に天皇という生身のご本尊をそのまま置き続けるスタイルで成立している(天皇の存在や動きが常に国家神道の活動となるのだ)。でも、戦後憲法の規定に基づく表の顔は、二〇条の厳格な政教分離原則に支えられた「非宗教」の象徴(人間)である。

かつての国家神道は、皇室神道、神社神道(非宗教論というイデオロギーが支配のイデオロギーであったとすれば、戦後は、神社神道は宗教であるが「皇室神道」は「非宗教」であるというイデオロギーで成立している。この象徴天皇(非宗教)という支配のためのイデオロギーに、正面から戦いを挑む反天皇制運動が、今こそ大衆化されなければならない。私は、そう強く思っている。

〈象徴天皇教〉という概念は、象徴(人間)天皇制という表と、神権(現人神)天皇制という裏の顔を、まとめてつかまえるための言葉として提出したつもりである。その二重構造性をトータルに批判する思想視座に立つ規定だ。

四月一日、新元号が発表され、全マスコミあげての大元号フィーバーが繰り広げられている。天皇の「死」のない「代替わり」は、祝賀一色のマスコミ仕掛けの政治的儀礼で埋めつくされるだろうと予測はしたものの、安倍政権じかけの(一世一元)元号大騒ぎは、政権の支持ポイントを上昇させ、支持率五〇%超えなどと言聞かされるとひたすらウンザリである。

政権(首相)に批判的なマスコミは、安倍の決定プロセスの秘密主義、今までの中国古典から取った「伝統」を「万葉集」から変えた安倍のナショナリストぶりをからかい、天皇(元号)の政治利用主義を非難するトーンを強力に流し込み、それを天皇(王)による民衆の間を政治的に支配するためのこのイデオロギー装置そのものへの疑問や批判とすり替え、「元号制度」そのものは大歓迎の元号フィーバーへの大合流。こうした状況も予想通りだといえ、ウンザリである。

今、私たちが押さえておかねばならないのは、元号が敗戦後に法的根拠を失ったことは侵略戦争の精神的軸であった神権天皇制の、日本のみの超特殊な制度であったからあたりまえであるが、それが現在の「日本会議」につらなる民間神道主義右翼グループの大衆行動の積み上げの成果として一九七九年に「元号法」がつくられ、復活の法的根拠が生まれたことだ。それを支えたのは、「天皇は国の象徴で日本国民統合の象徴」だから、天皇暦があたりまえというロジックであった。裏(神)の顔を、表の象徴(人間)のベールにかぶせて、公然と露出させた戦後の最初の法律である。

憲法学者奥平康弘は、「昭和Xデー」の渦中の論文で、この元号法について「国家の象徴」である、という内容不明の文言を、打出の小槌みたいに振り回すことによって、支配体制は天皇にかこつけて、したいと思うことのなんでもできることになるだろう」と批判した。その通りのことが、今、起きているのだ。

私流にいえば、「元号」は〈象徴天皇教〉の強力な支配のための装置である。元号NO!の声をこそ上げ続けるしかない。

「ハルニチ」

3月1日～3月31日

【3月1日】

歴史認識 ◆ 韓国の文在寅・大統領が、

「三一独立運動」から100年の政府式典で演説し「力を合わせ（日本の植民地支配の）被害者たちの苦痛を実質的に癒やしたとき、韓国と日本は心の通じる真の友人になる」。

【3月4日】

明仁、美智子 ◆ 宮内庁が、明仁、美智子が3月25～28日の日程で京都府と奈良県を訪問すると発表。

代替わり ◆ 宮内庁が、徳仁の新天皇即位に伴う一般参賀を5月4日に皇居・宮殿で行うと発表。明仁と美智子は参加しないと報道。

【3月5日】

明仁、美智子 ◆ 即位30年と結婚60年に伴い宮内庁職員が皇居内で催した懇談会に出席。皇居内の休憩所「窓明館」で行われ、職員計約650人が参加。

【3月6日】

「三種の神器」 ◆ 安倍晋三首相が参院予算委員会で、「三種の神器」の一部である剣と璽（勾玉）について「5月1日午前0時の皇位継承と同時に継承される。政府が一時、預かることはない。剣璽等承継の儀について「新天皇が継承されたことを目に見える形で公にする儀式だ」。剣と璽は、4月30日午後5時からの「退位礼正殿の儀」で天皇が式場に置き、新天皇

即位後の5月1日午前10時半から「剣璽等承継の儀」が開かれる予定。

【3月7日】

靖国弾圧 ◆ 前年12月に靖国神社（東京都千代田区）の敷地に正当な理由なく入ったとして、建造物侵入の罪に問われた男女2人の被告が東京地裁（白石篤史・裁判官）の初公判で、いずれも「日本政府に過去の戦争の反省を促すために入った。正当な理由がある」と無罪を主張。

【3月8日】

明仁、美智子 ◆ 皇居・東御苑の三の丸尚蔵館を訪れ、明仁の在位30年と明仁、美智子の結婚60年を記念して開催中の特別展「御製・御歌でたどる両陛下の30年」を鑑賞。

代替わり ◆ 宮内庁が、天皇代替わりに伴う儀式や祭祀の細部を詰める「大礼委員会」の第5回会合を開催。明仁、美智子が昭和天皇陵を参拝し4月30日で退位することを報告する儀式を、同月23日に行うこと、国事行為として4月30日に皇居・宮殿で行われる「退位礼正殿の儀」以外の10儀式の次第を発表。国事行為を除く儀式の費用について、「内廷費」でまかなう方が適切と判断したと報道。／参院の本会議で、明仁の在位30年に「感謝と慶祝」の意を表す「賀詞」を議決。

【3月9日】

明仁、美智子 ◆ 東京都千代田区の国立劇場で、沖縄の伝統芸能公演「組踊と琉球舞踊」を鑑賞。

東京大空襲 ◆ 一晩で約10万人が犠牲になったとされる東京大空襲から74年を迎え、遺骨が納められている東京都慰霊堂（墨田区）で法要が営まれ、遺族らが犠牲者を追悼。遺族ら約600人が出席。東京都の小池百合子知事が追悼の辞。秋篠宮、紀子が参列。

【3月10日】

明仁、美智子 ◆ 皇居・御所で、パラオのレメンゲサウ大統領夫妻と共に昼食。

秋篠宮、紀子 ◆ 東日本大震災と東京電力福島第1原発事故の発生から8年を迎え、東京の国立劇場で開かれた政府主催の追悼式に参列。

【3月11日】

天皇、皇族 ◆ 明仁が皇居・宮中三殿で、4月30日に自らが退位することを歴代天皇などに報告する「期日奉告の儀」に臨む。

明仁の儀式が全て終わると、徳仁が拝礼、秋篠宮、紀子や他の皇族、宮内庁幹部が順に参拝。

【3月12日】

明仁 ◆ 皇居・御所で、4月30日に退位することを報告するため、伊勢神宮（三重県伊勢市）などに天皇の使い「勅使」を派遣する「勅使発遣の儀」に臨む。神宮のほかに、初代天皇とされる神武天皇の陵（奈良県橿原市）や、孝明、明治、大正、昭和の各天皇陵へ同様に明仁の退位を報告する勅使を派遣すると報道。

【3月13日】

明仁、美智子 ◆ 東京・上野の東京国立博物館を訪れ、明仁の即位30年を記念し、皇室ゆかりの美術品などを紹介する特別展「両陛下と文化交流―日本美を伝える」を鑑賞。

徳仁、雅子 ◆ 東京都千代田区のホテルを訪れ、教育や医療、ボランティアなどの分野で社会貢献した人をたたえる「第15回ヘルシー・ソサエティ賞」の授賞式に出席。

皇位継承 ◆ 安倍晋三首相が参院予算委員会で、女性皇族が結婚後も皇室にとどまる「女性宮家」創設など皇位継承の安定策を巡り「さまざまな意見があり、国民のコンセンサス（合意）を得るためには慎重な検討が必要だ」。

【3月14日】

明仁、美智子 ◆ 皇居・宮殿で厚生労働大臣表彰の医療功労賞受賞者10人と面会。／宮内庁が、明仁、美智子の1年間の活動を紹介するDVD「天皇皇后両陛下の一年―ご譲位を前にされて―」を制作し、政府インターネットテレビで配信を始める。皇居・東御苑の売店で1枚1500円で販売していると報道。

「君が代」処分 ◆ 卒業式の「君が代斉唱」時に起立しなかったことを理由に停職6カ月の処分を受けたのは不当として、東京都立学校の元教諭の女性2人が都を訴えた訴訟の控訴審判決で、東京高裁が、1人の処分を違法として取り消し、もう1人の処分を適法とした一審東京地裁判決を支持し、2人の控訴を棄却。

朝鮮学校 ◆ 朝鮮学校を高校無償化の対象から外したのは違法だとして、九州朝鮮

物館を訪れ、明仁の即位30年を記念し、皇室ゆかりの美術品などを紹介する特別展「両陛下と文化交流―日本美を伝える」を鑑賞。

中高級学校（北九州市八幡西区）の卒業生68人が国に計約750万円の損害賠償を求めた訴訟の判決で請求を棄却。

【3月15日】

明仁、美智子◆皇居にある皇宮警察本部の武道場「済寧館」で、明仁の即位30年を記念した武道大会を観戦。／宮内庁が、明仁、美智子が4月17～19日、三重県伊勢市などを訪問すると発表。「三種の神器」のうち剣と璽（曲玉）を携えて皇居から移動する「剣璽動座」を実施。

秋篠宮、紀子、悠仁◆悠仁が、秋篠宮、紀子と共にお茶の水女子大付属小（東京都文京区）の卒業式に出席。

代替わり◆伊勢神宮（三重県伊勢市）で、明仁からの奉納品を供える「奉幣の儀」が行われ、皇室の祖神とされる天照大神を祭る内宮で天皇の使い「勅使」が4月30日の退位を報告。内宮に先立ち、衣食住や産業の守り神を祭る外宮でも行われる。

【3月16日】

紀子、悠仁◆東京都八王子市にある昭和天皇が埋葬されている武蔵野陵を参拝し、悠仁がお茶の水女子大付属小（東京都文京区）を卒業したことを報告。敷地内にある香淳皇后が埋葬されている武蔵野東陵も参拝。これに先立ち、悠仁が皇室の祖先などを祭る皇居・宮中三殿を単独で参拝し、卒業を報告。

朝鮮人犠牲者追悼◆1945年3月10日の東京大空襲から74年を迎え、犠牲者約10万人のうち1割を占めるとの指摘もある朝鮮人の追悼会が、東京都墨田区の一部慰霊堂で開かれる。

天皇、皇族◆明仁の即位30年と明仁、美智子の結婚60年に伴う昼食会が、明仁、美智子を招いて、皇太子一家が住む東京・元赤坂の東宮御所で開かれる。徳仁、雅子と秋篠宮、紀子、黒田清子夫妻が主催し、愛子や眞子、佳子、悠仁ら皇族のほか、元皇族や親族など計約50人が出席。

【3月18日】

天皇、皇族◆明仁、美智子が、明仁の即位30年を記念して皇居で開かれた宮内庁楽部による春季雅楽特別演奏会を鑑賞。徳仁や秋篠宮、紀子、眞子、佳子、故高円宮の妻久子が同席。

明仁、美智子◆東京・上野の国立科学博物館で企画展「天皇陛下の御研究と皇居の生きものたち」を見る。

皇位継承◆菅義偉・官房長官が参院予算委員会で、女性皇族が結婚後も皇室にとどまる「女性宮家」創設など皇位継承の安定策を巡り、5月1日の新天皇即位後、速やかに検討を始める意向を示す。

【3月19日】

代替わり◆政府が、皇位継承に伴う一連の儀式の詳細を検討する「式典委員会」（委員長・安倍晋三首相）で、平成の代替わりの前例を基本とした各儀式の細目を決定。4月30日に明仁が退位前に最後の言葉述べる「退位礼正殿の儀」の細目について協議。

【3月20日】

皇族◆春卒業の音大生による演奏会が皇居・東御苑の音楽ホール「桃華楽堂」で開かれ、美智子や徳仁、雅子と秋篠宮、紀子、眞子、佳子らが鑑賞。

元号◆内閣府が、1989年1月に元号を「平成」に改めた際の過程を記した公文書に関し、月末までの保存期限を5年間延長すると決めた。保存期限を過ぎた文書は原則公開となるため、延長しなければ5月1日の改元に支障が生じかねない判断したもので、全面的な公開は2024年4月以降に事実上、先送りされると報道。

【3月21日】

「春季皇霊祭 神殿祭」◆安倍晋三首相が、皇居で行われた「春季皇霊祭 神殿祭の儀」に出席。

皇居◆宮内庁が、春恒例の皇居・乾通り的一般公開を、30日から4月7日まで行うと発表。

南洋戦訴訟◆太平洋戦争中、サイパンやパラオなどの旧南洋群島やフィリピンで戦争被害に遭った民間人と遺族が国に謝罪や損害賠償を求めた訴訟で、原告40人のうち22人が、請求を棄却した福岡高裁那覇支部判決を不服とし、最高裁に上告。

【3月22日】

徳仁◆東京都渋谷区の国連大学を訪れ、「世界水の日」記念シンポジウムを聴講。

佳子◆東京都三鷹市の国際基督教大（ICU）の卒業式に出席。宮内記者会の質問に文書で回答を寄せ、姉の眞子が結婚に関する儀式を延期していることについて「私は、結婚においては当人の気持ちが必要であると考えています。姉の一人としての希望がかなう形になってほしいと思っています」と書いたと報道。

の儀式に関する各府省庁間の調整を担う式典実施連絡本部（本部長・菅義偉・官房長官）の第3回会合を首相官邸で開く。

【3月24日】

眞子、佳子◆東京都港区のサントリーホールを訪れ、「千葉県少年少女オーケストラ」の東京公演を鑑賞。

【3月25日】

明仁、美智子◆東海道新幹線で京都市に到着、明仁の即位30年に当たって西日本の各界の代表者らを招いて京都御所で茶会を開催。

皇太子一家◆静養のため、北陸新幹線で長野県入り。

佳子◆昭和天皇が埋葬されている武蔵野陵（東京都八王子市）を参拝し、国際基督教大を卒業したことを報告。敷地内にある香淳皇后の武蔵野東陵を参拝。

【3月26日】

明仁、美智子◆奈良県橿原市を訪れ、神武天皇の陵をそれぞれ参拝し、明仁が4月30日に退位することを報告。宿泊先の京都大宮御所に戻る。

【3月27日】

明仁、美智子◆宿泊所の京都大宮御所がある京都御苑内で、近衛邸跡を「私的」に訪問。西日本の宮内庁職員が明仁の即位30年と、明仁、美智子の結婚60年を祝うとして京都御所で催した茶会に出席。

常陸宮◆東京都千代田区の科学技術館を訪れ「全日本学生児童発明くふう展」を見る。

代替わり◆政府が、皇位継承に伴う儀式の詳細を検討する「式典委員会」が19

日に開いた第4回会合の議事概要を公表。菅義偉・官房長官が明仁の退位に伴う4月30日の「退位礼正殿の儀」について、国事行為である「国の儀式」とすることを約1週間前に閣議決定する方針を示し、徳仁が即位する5月1日に行う二つの儀式に関しても、当日に同様の決定を行う考えを表明したと報道。／超党派の「天皇陛下御即位30年奉祝国会議員連盟」が、東京都内で4月10日に開く明仁即位30年の祭典「感謝の集い」の式次第を発表。祝賀コンサートに、松任谷由実やMISIA、フォークデュオ「ゆず」が出演し、ノーベル医学生理学賞受賞者の山中伸弥・京都大教授や映画監督の北野武らが祝辞を述べ、安倍晋三首相や中西宏明経団連会長ら1800人が参加予定で。元号◆天皇即位のたびに元号を改定する

美智子の「男」

日本の人口の9割が剥く「ナシヨナリストの牙」とは？

三月二日、複数の集会在重なり参加規模が心配された「日の丸・君が代」の強制を跳ね返す神奈川集会和デモも、六〇名弱の集会参加者を得て、講師小倉利丸さんの音頭で、「平和」「戦争」「憲法」「政治」「宗教」の再定義を踏まえた天皇制再考を試みた。

「戦時の隠蔽」を意味するのが「平和」、

のは「国民主権」を基本原理とする憲法の精神に反するとして、長野県弁護士会の山根二郎・弁護士ら3人が、国に差し止めを求めて東京地裁に提訴。

【3月28日】

明仁、美智子◆JR京都駅から東海道新幹線で帰京。

女性天皇◆政府が1997〜2004年、皇位継承資格者を女性皇族に拡大できるかどうか極秘の検討会を開いていたことが分かり、共同通信が入手した政府の内部文書や証言で確認したもので、04年春の文書には、女性・女系天皇を認める皇室典範の早期「改正」方針が記されていたと報道。

【3月29日】

明仁、美智子◆東京都港区の日本赤十字社を訪れ、陛下の即位30年を記念した写

真展「平成の災害と赤十字」を鑑賞。皇太子一家◆長野県での静養を終え、北陸新幹線で帰京。

徳仁◆徳仁が1983年から約2年間、英オックスフォード大に留学した当時の思い出をつづった著書「テムズとともに」の英訳本「The Thames and I」が、英国の出版社から再刊される。5月の新天皇への即位を前に、英国の日英親善団体「日本協会」が企画したと報道。

元号◆政府が、新元号の選定手続きに関する検討会議（議長・菅義偉・官房長官）を首相官邸で開く。菅官房長官が記者会見で新元号を公表するのは4月1日午前11時半ごろになると決める。新元号の原案を示す有識者懇談会は午前9時半から始め、約2時間で決定、公表し、安倍晋三首相が正午ごろから会見し、談話を発

要性の主張に当たる』『象徴としての天皇像を模索する道は果てしなく遠い』とは『国事行為者』と『世襲の神道祭司』との二つの機能間での苦悩表明。戦後の『国事行為』の「軽さ」が、『文化』領域に浸透するような戦略を取らせ、習俗に繋がる神道の伝統と『日本文化』を『宗教』として機能させ、二つの機能を重ね持つ構造として憲法に組み込まれた象徴天皇の政教分離は不可能だ』と。

天皇による「布教」によって日本人の人口の九割が信仰して成り立つ「宗教」が、暗黙の偏見を持つ「日本文化」「日本人」という選民思想であり、「日本文化」非尊重の非「日本人」へ剥きだす牙なのだと

表すると、菅官房長官が閣議で報告。首相が皇居を訪れ、明仁と面会し、新元号選定当日の流れなどについての報告とみられ、東京・元赤坂の東宮御所で徳仁と面会。

【3月30日】

皇居・乾通り◆桜の季節に合わせた春恒例の皇居・乾通りの一般公開が始まる。

【3月31日】

明仁、美智子◆東京都内にある長女黒田清子宅を訪れ、共に夕食。

皇太子訪韓◆1988年9月に当時の村田良平・外務事務次官（故人）が韓国の李源京・駐日大使に、明仁（当時の皇太子）の速やかな韓国訪問の実現を「期待している」と述べたと、韓国政府の文書に記されていることが分かる。韓国外務省が外交文書を公開。

いう認識に辿り着き、「日本人」というアイデンティティを再生産するための信仰「イデオロギー」装置である天皇制は、移民労働者の増加・文化的多様性への反発をバネに世界を席卷する極右の反近代主義（個人主義や普遍的人權の否定、異性愛家族主義、家父長制、外来種排除など）伝統的・旧来環境保全的な価値観と同質なものとして、それへの対応を我々も迫られていることを思い知らされた集会であった。

（大友深雪／神奈川の会）

「皇族出席の追悼式典」・一斉黙 禱反対！

福島原発事故から八年の三月一日、政府は今年も一四時半から国立劇場で「東日本大震災八周年追悼式」を秋篠宮出席のもと行った。官公庁や学校、企業などへ「弔旗掲揚、一斉黙禱」の指示を出し、「首相談話」で全「国民」に一四時四六分黙禱を要請した。

私たちは今年も「政府・東電・電力資本の責任を隠べし原発を推進する」「皇族出席の追悼式典」・一斉黙禱反対！今こそ被害者・労働者と連帯し、加害責任の追及、原発廃止を！3・11を原発と責任追及の日に」の集会・デモを3・11行動実行委主催で取り組んだ。

集会は、日比谷図書文化館で一二時から三四人が参加した。主催者の基調報告―「フクシマ」―被災地・被害者、被ばく労働者切り捨てが進む今こそ、政府、東電をはじめとする電力資本の責任を追及し、皇族出席の原発推進・国家責任回避の「追悼式典」・一斉黙禱を許さず、「3・11」原発と責任追及の日にしていこうと訴えた。

講演は、茨城の藤田康元さん（戦時下の現在を考える講座）が「原発・国体・不安定労働」茨城の現場から」と題して行った。東電原発事故は収束していないこと、政府が事故原因究明を放棄し、被害者―避難者も避難しなかった人も見捨てる棄民化政策、放射能汚染の実態を丁寧に、具体的に報告を行った。最後に、

東海第二原発を止めること。新天皇のはじめの茨城国体反対、五月一日を反奉祝メーデーとして闘おうと訴えた。

「終わりにしよう天皇制！」「代替わり」反対ネットワーク、「オリンピック災害おことわり連絡会からの連帯アピール」と「ゴウエスト」の運動をしている園さんから連帯メッセージをうけた。

集会後日比谷公園霞門からデモに出発し、「式典反対！」「黙禱させるな」とシュプレヒコールをあげ、経産省、関西電力などを通り、一四時四六分東電本社への大きな抗議・要請文を渡し、「東電の責任を追及するぞ」などのシュプレヒコールをたたき付けデモを貫徹した。3・11に原発と責任追及の声をあげることの重要性を再度確信した。

（野村／反戦反天皇制労働者ネットワーク）

「即位・大嘗祭」儀礼と政教分離との関係を問い直す

ピーブルズ・プラン研究所の主催で、ふた月に一度のペースで行われている「平成」代替わりの政治を問う連続講座。第九回をもってとりあえず一区切りをつけ、今後は第二期として、秋にかけて現実に行われていく「代替わり儀式」を射程に入れてテーマ設定することになった（らしい）。三月二十四日、ピーブルズ・プラン研究所会議室で、その一回目、「即位・大嘗祭」儀礼と政教分離との関係を問い直す…（天皇教）と戦後憲法」が行われた。問題提起者は、高橋寿臣（反天

連OB）、辻子実（安倍靖国参拝違憲訴訟の会・東京）、反天連の北野誉と天野恵一の四人。

高橋さんは、反天連の源流のひとつもなった靖国問題研究会の、八〇年代初頭からの活動をふりかえった。七〇年代に天皇制の突出という状況がある中で、天皇のための死者を祀る靖国神社の問題を、あらためて学ぶ必要性を感じ、年に二、三回の靖国天皇制問題集会を開催した。反天連に合流していく中で、八五年の中曽根公式参拝を闘った。天皇の儀式的宗教性が、日本人の曖昧な宗教意識と結びついて、天皇制を容認する「国民意識」を支えていると指摘した。

辻子さんは、政教分離訴訟の流れと、大嘗祭の儀式内容について、写真などを提示しながら説明。北野は、二〇〇〇年代前半に出てきた「無宗教の国立戦没者追悼施設」をめぐる動きから、非宗教的な装いを持つ「国家宗教」について報告した。天野は、このかん「天皇教」という用語を積極的に使うようになったこと、戦後国家は「非宗教国家」というのが建前であることを、竹内芳郎の議論を紹介しながら展開した。

すでにふれられているように、高橋さんは、この講座のたった一週間後にあるけなく逝ってしまった。「公的」な場での発言としては、これが最後のものとなったはずだ。講座内容は毎回パンフ化されている。もはや高橋さんに手を入れてもらうことはかなわないが、完成したら、ぜひ多くの方に手にとって読んでほしい。

天皇「代替わり」直前！ 今からでも「NO」と言おう

新天皇即位のほぼ一か月前で新元号発表の二日前である三月三〇日、文京区民センターで表記の集会が行われた。参加は九〇名。

今回の集会では、私たちおわてんねつとのメンバー五人が報告ないし発題し、それを受けて全体で議論という形をとった。ピラにあつたように文字通り私たちの総力を挙げての集会である。

まずは「代替わり」と天皇教、北野誉さん（反天皇制運動連絡会）から一連の「代替わり」儀式や費用の問題点の指摘があった。天皇教は時々使われる言葉だが、現状の「国民」と天皇の関係を適切に示した言葉ではないかと思う。次に「米国と天皇」、井上森さん（立川自衛隊監視テント村）から。用意されたレジュメとは全く別に、わかりやすくすぐりも入ったスライドショーとして米国と天皇の関係がまとめられていて感嘆。次に「あとつぎ問題…女性と天皇」、桜井太子さん（女性と天皇制研究会）から。高貴と持ち上げられつつも、野次馬的な関心の対象とされ、性的いやがらせそのものの質問にさらされることが当然視されていることの問題性を入り口にして皇位継承問題が語られた。次に「くらしと天皇」、京極紀子さん（日の丸・君が代）の法制化と強制に反対する神奈川の会 から。

（北野誉／反天連）

「代替わり」に祝意を強制される社会の具体例が語られた。相模原は市議選に在特会が政党を作った立候補のため、その抗議行動の渦中での報告である。最後に「ヘイトと天皇」、宮崎一さん（差別・排外主義に反対する連絡会）から、韓国国会議長の天皇への謝罪要求発言を入りに、政府の「無礼」発言に見える朝鮮蔑視、戦前の軍事天皇制と戦後の象徴天皇制という区別が日本国内のみに通用する論理であること、今日の排外主義は植民地侵略を担った兵士が帰国して国内に広げたものであることが語られた。

発題の後、おちんズの「元号やめよう」「天皇制はいらないよ」が歌われ、通常設けるアビールタイムすらなく会場内で議論が続けられ、きっちり三時間で集会は閉められた。

さあ、いよいよ次は反天ウィークだ！

（加藤／戦時下の現在を問う講座）

反天日誌

3月2日（土）●「日の丸・君が代」の強制を跳ね返す神奈川集会とデモ（集会報告参照）

●安倍改憲と憲法9条 戦争（場）の実態から（絶対平和主義）理念を考える
●討論集会・改憲―戦争・治安国家と今、どう闘うのか

3月7日（木）●12・12靖国抗議見せしめ弾圧第1回公判
3月10日（日）●東電本店合同抗議

●老朽―被災原発（東海第二）動かすな！日本原電抗議行動

3月11日（月）●政府・東電・電力独占の責任を隠べいし、原発を推進する「皇族出席の追悼式典」一斉黙祷反対！
3月11日（月）●集会報告参照

3月16日（土）●救援連絡センター定期総会
3月17日（日）●北部労働者共同闘争会議春季集会

3月19日（火）●12・12靖国抗議見せしめ弾圧第2回公判
3月21日（木）●さよなら原発集会

3月22日（金）●東電の労災責任を問う
3月24日（日）●「平成」代替わりの政治を問う―連続講座「即位・大嘗祭」

儀礼と政教分離との関係を問い直す（集会報告参照）

3月30日（土）●天皇「代替わり」直前！今からでも「NO」と言おう集会（集会報告参照）
3月31日（日）●おことわりリンク学習集会 東京五輪施設建設と外国人労働者

東電と原発 INFORMATION

4月12日（金）●マイナンバー制度の拡大を狙う「3法案」に反対する院内集会
12時／衆議院第2議員会館第1会議室（地下鉄国会議事堂駅ほか）／主催…共通番号いらないネット（080-5052-0270 宮崎）
●宮古島からのSOS

【学習会報告】

河原宏『日本人の「戦争」』——古典と死生の間に

（築地書館、一九九五年）

今回の政治（思想）史研究者・河原宏の『日本人の「戦争」』——古典と死生の間に（一九九五年・築地書館）二〇一二年に「IVアジアへの共感と連帯」「V自壊の系譜——アジア主義の制度化をめぐって」の二つの章は削除され、講談社学術文庫に収められている）は、かなり特異な本であった。

（あの戦争を実感として取りあげる、人が生きる上の哀歓は、何時でも何処でも変わらない）（人間には、死に直面し

てかえって生を実感するという逆説がある）。

「古典と死生の間」という奇妙なサブタイトルをつけた本書のモチーフは、こんなふう語られている。それは以下のごとき世代的（経験）を根拠にかたちづけられたものだ。

（……社会的にものごころついていたほぼ中学三・四年の時には、すでに敵の大軍は本土周辺にせまり、戦争とはまさに祖国防衛戦争にはかならなかった。し

かしそれだからこそ、祖国とは何かの問いには、どうしても自分の答えを見つけないならなかった）。

国家・天皇・戦争とは、何なのかという自問を、自分の命をかけ（されられ）た体験を通して、手はなさなかった著者は、戦死者との対話として、歴史を書き続けてきたわけである。（「死者」との対話は、戦後身につけた歴史的・社会科学的知見（抽象）のみではなく、情（共感・共悲・共苦）の感情をテコにした論理を必然化する。戦争を人々の「心の内側」からも見ようという方法。

私は築地書館の単行本でレポートし

たが、二つの章が欠落している文庫で読んできた参加者には、レポート（説明）がしにくかった。ゆえにこの削除は問題ナシとする作者の意図（文庫版あとがき）は、理解し兼ねた。

この方法そのものに拒否感をあらわにする参加者もいたが、私は少し「あやうい」ものを感じないわけではなかったが、わりとストンと胸に落ちる方法であり展開であった。

次回は四月二三日（火）、原武史の『平成の終焉』（岩波新書）を読む。

（天野恵二）

18時30分／国分寺労働会館第3会議室（JR国分寺駅）／主催：横田行動実行委員会（043592386）立川自衛隊監視テント村ほか

4月16日（火）●『国民体育大会の研究』を読む（前編）

19時／つくば市立吾妻交流センター（TXつくば駅ほか）／戦時下の現在を考える講座（0908441457加藤）

4月19日（金）●天皇代替わりと政教分離

18時30分／酒田芳人／在日韓国YMCA3F（JR水道橋駅ほか）／主催：平和の灯をーヤスクニの闇へ キャン

ドル行動実行委員会（033353841）

●韓国国会議長発言「天皇は謝罪し、天皇制をやめろ」

18時30分／スペースたんぽぽ（JR水道橋駅ほか）／北野誉／人権と報道・連絡会

4月20日（土）●ここが問題！天皇代替り

14時／コミュニティカフェPao（遠州鉄道八幡駅ほか）／桜井大子／主催：人権平和・浜松

4月21日（日）●天皇の植民地支配責任

14時／WAMオープンスペース（地下鉄早稲田駅ほか）／山田朗／主催：女たちの戦争と平和資料館（033204633）

4月24日（水）●警視庁機動隊の沖縄への派遣は違法 住民訴訟証人尋問（三回目）

14時／東京地方裁判所103号法廷（地下鉄霞ヶ関駅ほか）

4月26日（金）●運動史とは何か？

17時開場／ピーブルズ・プラン研究所（地下鉄江戸川橋駅ほか）／加藤一夫、天野恵一ほか／主催：戦後研究会＋社会運動史研究1編者一同

4月27日（土）●「反天WEEK」アキヒト退位・ナルヒト即位？今こそ問い直そう！天皇制

18時15分開場／練馬区立厚生文化会館地下大会議室（西武池袋線練馬駅ほか）／伊藤晃／主催：アキヒト退位・ナルヒト即位問題を考える練馬の会（0905285803池田）

●天皇代替わりに異議あり！関西集会

13時開場／エルおおさか6F大会議室（JR天満橋駅ほか）／天皇代替わりに異議あり！関西連絡会（09051661251寺田）

4月28日（日）●「反天WEEK」沖縄デー集会

17時45分開場／文京区民センター2A（地下鉄春日駅ほか）／天野恵一／主催：終わりにしよう天皇制！「代替わり」反対ネットワーク（09033380263）

4月29日（月）●「反天WEEK」反「昭和の日」立川デモ

13時15分開場／14時デモ出発／緑町公園（JR立川駅）／主催：終わりにしよう天皇制！「代替わり」反対ネットワーク（09033380263）

●基地・軍隊はいらない！4・29集会

18時15分開場／文京区民センター3A（地下鉄春日駅ほか）／高里鈴代、宮城善光／主催：同実行委員会（09039104140沖縄・一坪反戦地主会

関東ブロック）

●いらんばい天皇制4・29集会

14時／16時30分デモ出発／福岡市立中央市民センター（地下鉄赤坂駅）／協義重、島田雅美、まえたヒソカ、木村真昭／主催：天皇代替わりを問う九州山口連絡会（07055647679倉掛）

4月30日（火）●「反天WEEK」退位で終わろう天皇制！新宿大アピール

16時30分／新宿東口アルタ前広場（JRほか新宿駅ほか）／主催：終わりにしよう天皇制！「代替わり」反対ネットワーク

5月1日（日）●改憲・天皇即位反対！非正規差別撤廃！闘うメーデーの復権を

13時15分／15時20分デモ出発／日比谷図書文化館（地下鉄霞ヶ関駅ほか）／鈴木裕子／主催：2019反天皇制メーデー労働者行動（準）（0336333433）

●「反天WEEK」新天皇いらん銀座デモ

16時／17時デモ出発／ニュー新橋ビル地下ホール（JR新橋駅ほか）／主催：終わりにしよう天皇制！「代替わり」反対ネットワーク

5月3日（金）●5・3憲法集会

11時／有明東京臨海防災公園（ゆりかもめ有明駅ほか）／主催：同実行委員会（0352807157ほか）

5月8日（水）●即位・大嘗祭違憲訴訟（国賠分）

14時30分／東京地方裁判所103号

法廷（地下鉄霞ヶ関駅ほか）

5月9日（木）●南京大虐殺・靖国に抗議した香港陣陣圧を許すな！集会

18時30分開場／文京シビックセンター・シルバーホール（地下鉄後楽園駅ほか）／田中宏、一瀬敬一郎、和仁廉夫／主催：12・12靖国抗議見せしめ弾圧を許さない会（mieshime@protonmail.com）

5月24日（金）●第32回政教分離訴訟全国交流集会

13時開場／日本キリスト教会館4F（地下鉄早稲田駅ほか）／中嶋啓明、酒田芳人ほか／呼びかけ：即位・大嘗祭違憲訴訟の会、安倍靖国参拝違憲訴訟の会・東京、ノー！ハブサ（連絡先：sokudai@mail.zhizhine.net）

5月25日（土）●オリンピックと放射能

「復興五輪」という欺瞞

13時15分開場／武蔵大学1号館2F・1203教室（西武池袋線江古田駅）／倉澤治雄／主催：「オリンピック災害」おこたわり連絡会（info@2020kotowai.hk）

●事務局OBの某高橋が突然逝ってしまった。いかにも某高橋として。（木菟）

●反天運動と、スキーや水泳、温泉などが境目なしの人。まさか此岸彼岸も境目がないとは。（編蝠）

●お通夜には古いメンバーがみんな来たけど、こんなことでなければ……。 （猥）

●本当にクタクタ、みなさんお体を大切に。（熊）

Q.....神田川